

## 女子大生フォーラム

JISSEN WOMEN'S UNIVERSITY · JISSEN WOMEN'S JUNIOR COLLEGE



2015.12~

\ ここが始まり /



「東京2020の競技大会を実践女子大生が先頭に立ち、  
女子大生の力でオリンピック・パラリンピックを盛り上げたい！」



2014年6月、全国552校の大学・短期大学と東京オリンピック・パラリンピック組織委員会との連携協定締結後、本学のキャリア教育を担当する深澤教授が「国際理解とキャリア形成」の授業の中で「実践女子大学の学生として自分はどのようなことができるか？どんなオリンピック・パラリンピックにしたいか？」というテーマに取り組むことを組織委員会に提案。2015年7月に組織委員会主催で行われた「大学地域巡回フォーラム」（東京オリンピック・パラリンピックの紹介や大学生に期待することについて紹介するシンポジウム）に参加した学生が、女子大生の視点からオリンピック・パラリンピックについて考える「女子大生フォーラム」の開催を宣言。学科もサークルも異なる有志7名が中心となり、実現に向けた準備を始めました。授業で学んだファシリテーションやリーダーシップのとり方等を生かしながら、どうすればフォーラムが充実するののかについて考えていきました。

毎年10前後の大学、約100人の女子大学生が実践女子大学渋谷キャンパスに集結し、オリンピック・パラリンピックについて意識を深めるに加え、大学を超えたネットワーク作りに寄与しています。

今までの参加大学は青山学院大学、慶應義塾大学、國學院大學、自由学園、東京女子体育大学、東洋英和女学院大学、フェリス女学院大学、武蔵野大学、京都光華女子大学、成蹊大学、津田塾大学、実践女子大学の学生や関係者ら参加しており、渋谷区の共催により、2016年度からは、「東京2020参画プログラム」として行われました。

参加者は「2020東京パラリンピック大会において、渋谷区で開催される競技について調べ、2020年までに何をし、2020年の大会時にどう関わるか、女子大生の視点を大切に考える」「マップを通して心のバリアフリーを考える」「SDGsとオリンピック・パラリンピックとの関わりを考える」という毎年異なった課題を提示され、東京2020大会に向けて学びと経験、そしてレガシーを積み上げています。



毎年すごい！

\ 各年度多彩な体験 /

### 基調講演・パラリンピック競技体験・日本文化体験とイベント内で様々な学びを

毎年「女子大生フォーラム」ではイベント内で参加者に様々な体験できるよう企画しています。パラリンピック競技「ボッチャ」の体験やVRフェンシング体験のほか、2016年度はフェリス女学院大学の和田浩一教授による「女性の視点から見えるオリンピックとパラリンピックの歴史と課題」の基調講演、2018年度には「SDGsとオリンピック・パラリンピックを考える」と題し、SDGs経営の先駆的企業である株式会社大川印刷の大川哲郎社長をお迎えし、基調講演を行いました。

また毎年、実践女子大学礼法研究部による「日本文化体験」を行っており、礼法研究部顧問の永井とも子先生を講師に、国際社会で活躍するための立ち居振る舞いや食事のマナーについて実技を交えながら学び、その他にも水引の作り方、美しいお箸の使い方、と様々な世界へ誇る日本文化の学びを行っています。



※学生の学年・教員の職位表記は2018年度のもので  
発行：2020年10月 オリパラ推進室